

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第八小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	・学校教育目標の実現に向けて、分掌主任、学年主任を中心に組織的な教育活動を実施していく。 ・それぞれの学年の様子を共有できていない面があるため、職員集会や職員会議で周知する時間を設け、協力できるところは学校全体で協力し合う体制を構築する。	A	・教師は忙しい中で児童一人一人に向き合っている。・学校経営方針が年度当初に示され、年間をとおして達成に取り組んでいる。・保護者と先生の会で発信している「がくぶり」がよい。・tetoruやがくぶりがあるので、ホームページの活用が少なくなるのであれば、シンプルなものに作り直す。・保護者や地域に組織的な取組が伝わっていないことが課題である。・評価が難しい。職員会議等でのような話し合いがされているか議案のみでもよいので共有してもらいたい。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。(※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	B	・施設設備は日常的な点検と定期点検を徹底して、事故を未然に防止する。 ・生徒指導の諸問題は月1回の生徒指導部会で状況や経過等を確認し、共通理解・共通行動で適切に対応する。 ・不審者対応について、来年度はまずは教職員の研修を警察署の協力を得て行い、安全・安心な学校作りの第一歩とする。	A	・学校だけでなく朝霞市のいじめ防止月間や冬休み中の安全などについて触れられている。・職員玄関から正門までが暗い。・保護者や地域に危機管理の取組が伝わっていないことが課題である。・事故防止年間計画や教職員向けの危機管理体制の周知、教育・研修等がどのようにされているか共有してもらいたい。また、毛虫・ねずみ・蜂等の対応について先生方の範疇を超えた事項において、学校運営協議会委員としてどのようにサポートできるか知りたい。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	・低学年の学習内容を着実に定着させ、中・高学年ではこれまでの学習との関連性を実感できる授業づくりを行う。 ・毎時間の授業で明確なめあて・課題をもたせた授業を行うことで、すべての児童に基礎学力を定着させる。 ・授業におけるタブレット端末の活用の充実だけでなく、放課後や長期休業等でも児童がタブレット使用のルールを守って効果的に活用できるよう指導していく。	B	・児童の学習態度がとてもよい。・ICT機器のより効率的な活用が基礎学力の更なる向上につながる余地があると思う。・基礎ができていない児童が見られる。・学校全体で学力が高い。・元々学力が高いが、改善策がよくわからない。・埼玉県学力・学習状況調査において、かなり平均値は高いと聞いた。学力の格差や授業支援の実情について正確に理解を深め、学校運営協議会委員とどのようにサポートできるのかを知りたい。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	・3年生以上については、教科担任制を拡大し、専門的な指導、学年統一した指導を徹底することで学力向上を目指す。 ・タブレットを用いたすららドリルの活用を学校だけでなく家庭とも連携して取り組むことで児童の学力定着を図る。	B	・個人差がある中で、努力している。・登校～授業中の様子は落ち着いて礼儀正しく見えるが、下校時は開放的になっていて危ない。・授業参観でとても素晴らしい工夫を積み重ねていると感じている。しかし、一部の先生方しか把握できないので、校内研修を見学させてもらったり、日々の研鑽について知る機会をいただきたい。また、行き過ぎた保護者の要望や先進的過ぎる要望も多いと思うので、公立学校における標準の形なども、学ぶ方法があるとありがたい。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	・学習規律の確立を目指し、低学年補助教員や児童生徒支援員、スクールサポーターの支援を受けながら特に低学年段階で着実に身に付けさせていく。 ・学校ち家庭が共通認識を図り、その場所でのルールを守ることやルールに準じた指導を素直に受け止める態度を育てていく。	B	・あいさつがきちんとできていて、規律を守れている。・挨拶や校舎内の歩き方等、ルール・規律は守られている。・よく取り組んでいて、児童の健康につながっている。・あいさつ運動の効果はある。しかし、交通安全、特に自転車の安全な取り扱い方については効果が低いと感じる。学校運営協議会としてサポートすべき案件であると感じている。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	・毎月の全校朝会で、生徒指導部教員が生活目標を確認して指導を行う。 ・名札着用や廊下歩行、挨拶、校帽の着用等で教職員が足並みを揃えた指導を行うことで改善していく。 ・月末に全児童が生活目標の振り返りを行うことで、改善点を見出し、指導につなげていく。	B	・ほとんどの先生は丁寧な指導をしているが、一部気になる先生もいる。大規模校ゆえに細やかさは求められないのかと感じている。八小のきまりのランドセルの記述はなくすべきである。・取組事例の具体的な内容を共有いただきたい。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	・体育的行事や体育朝会、朝運動を工夫して、運動好きの児童を増やす。 ・業間休みや昼休みでの外遊びを積極的に奨励する。 ・忙しい高学年児童が体を動かす時間を確保していく。	A	・体育授業の充実の他、業間の外遊びも推奨されており、児童も積極的に取り組んでいる。・大縄大会の取組や課題について共有いただきたい。集団運動によるデメリット対策が気になる。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	・体育部が中心となって体育授業での運動量確保や新体力テストにおける課題のある項目を伸ばすための動きや運動を計画的に取り入れる。 ・鉄棒教室や跳び箱教室をこれまでどおり、行うことで基礎的な技能を児童に習得させる。 ・校内に体力向上ブースを作ったり、年間をとおしての体育的活動に学校全体として取り組んでいく。	A	・放課後や休日は、ゲームをしている時間が長く、体を動かすのは学校のみという児童が増えているので、引き続き取り組んでもらいたい。・取組事例の具体的な詳細を共有いただきたい。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	・朝霞市社会福祉協議会や朝霞市博物館による出前授業、朝霞市浄水場や消防署をはじめとした市内関係機関とも連携して体験的な学習の充実を図る。 ・学校応援団八枚、地域の方、保護者と先生の会、103の会等との連携をこれまで以上に密にし、教育活動に積極的に関わっていただく機会を設定する。	A	・必要に応じて授業補助等に保護者や地域の協力を得る体制はできている。・のこぎり応援を栗山工務店様に協力いただいた点はよかった。・保護者、地域に対して本校の特色である「食育」をより打ち出し、その柱に沿った連携を求める等、根拠や計画を明示した方がよい。・適切な・最適な連携を維持するために関係団体等との話し合い、効果や課題等について共有の場がもう少し必要ではないかを感じる。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	・保護者と先生の会地区担当との連携で、校区内の安全指導や通学路点検を継続する。 ・各学期当初数日間は、教職員も保護者とともに通学路に立って安全指導を実施する。	B	・地域の人たちと交流できる場があるといふ。ふれあいまつりはあるが、通学時のサポートができるとうい。・学校応援団八枚のはねの協力体制はできている。もっと多くの保護者が学校運営に協力するとうい点では、更に工夫が必要である。・読み聞かせの読み手の方々に感謝したい。・もう少し授業の様子や行事を見られる機会がほしい。・有志の保護者・地域の方々は学校への協力をしたい気持ちはあつた。・接点が少ない現状と思われる。家庭が関わる登下校の安全を切り口に、協力を呼びかけた方がよい。・推進している方とそうでない方の格差が開きつつあると感じる。この連携における効果(特に予防されるもの)を可視化する手法や、仕組みについて要検討かと思う。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満